

令和8年度 第1回 学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立出来島支援学校
校長名	武田 幸造

開催日時	令和8年7月3日(金) 13:30～15:30
開催場所	府立出来島支援学校 4階 会議室
出席者(委員)	瀧本会長(大阪成蹊大学准教授)、 南副会長(大阪市教育委員会インクルーシブ推進教室教育相談員)、 塚本委員(出来島地域活動協議会副会長)
出席者(学校)	武田校長、小野教頭、上戸教頭、木崎事務長 花谷首席、浅井首席、和田首席
傍聴者	なし
協議資料	学校運営協議会実施要項及び学校運営協議会傍聴に関する要領 令和8年度 学校経営計画及び学校評価 令和8年度 使用教科用図書(選定・採択)一覧表

議題等(次第順)

1. 校長あいさつ
2. 「学校運営協議会委員」及び「事務局」自己紹介
3. 「学校運営協議会実施要項」及び「学校運営協議会傍聴に関する要領」確認
4. 令和8年度 学校経営計画及び学校評価について
5. 令和8年度 使用教科用図書について
6. 事務連絡

協議内容・承認事項等(意見の概要)

4. 令和8年度 学校経営計画及び学校評価について

○学校経営計画及び今年度の重点目標の具体的な方策についての説明(校長・首席)

今年度の学校経営計画における重点事業(今年度の新規事業を中心に説明 *【】付の数字は学校経営計画の番号)

(教員の授業力向上)

 - ・各教科で子どもにどんな力を育成するかを示す基本シラバスの内容見直し【1-(1)】
 - ・指導者交流による学年、学部を越えた教科学習でのコラボ授業の展開【1-(2)】
 - ・支援学校教員経験年数5年未満の教員のための授業力向上研修会の立ち上げ【1-(3)】

(キャリア教育の推進)

 - ・職業科目で生産する商品(窯業・農園芸・木工)のブランド化、サービス(清掃)の外注【2-(4)-イ】
⇒商品販売で、スーパー・ライフ、ねこCafé、地元レストランとの連携の話が進んでいる
 - ・中・高等部6年間の系統性ある産業現場実習の完成年度(高3卒業学年一期生の進路指導)【2-(5)-ア】

(開かれた学校づくり)

 - ・自立活動の時間における指導をテーマとした公開研修会・授業研究会の3カ年め【3-(1)-ア】
 - ・桜和高校、東淀工業高校、大阪成蹊大学とのコラボ授業【3-(2)-ア】

委員)通学路の件について、阪神出来島駅から学校までの間に危険な場所が数か所ある。学校の対応について聞かせてもらいたい。

校長)自主通学生徒の通学路は、開校前年度に地域活動協議会(地活協)との協議のうえ決定し、現在の経路になった。神崎川沿いの道について、今後国土交通省によるスロープ架け替え工事が予定されていると連絡があり、通学路の見直しを学校としても検討していきたい旨、今年度4月に地活協にも相談していた。

教頭)校長からの話を受け、生活指導部で通学路について検討した。現時点で学校としての見解(新ルート案)はまとまっておらず、今年度は現行の通学路を使用している。

委員)神崎川沿いの道の工事が本格的に始まったら通路幅が半分になり、また自転車も多いので危ない。今後、通学路を変更する意向があれば、地活協に知らせていただきたい。

委員)①シラバスの検討状況 ②初任者の授業づくりにおけるメンターの役割、③中学部高等部の職業科目について、④地域支援について就学前施設を入れた理由、⑤いじめアンケートについて。以上5点について詳しく教えていただきたい。

校長)①シラバスは、その教科で児童生徒に身に付けてほしい資質・能力が何であるかが「学習内容」として書かれるもので、府内統一様式。しかしながら、「学習内容」が「活動内容」(どんな活動をするか)になってしまいがちであり、本校の基本シラバスも「学習内容」を示すものになっているかという観点で、教務部を中心に、内容の確認を行っている。白シラバスは、基本シラバスを基に、その年度の担当教科グループの年間指導計画にあたるものとして、指導実践の蓄積としていくものであり、昨年度(開校2年め)から作成を進めている。②昨年度までは初任者がほぼ小学部の教員であった。今年度3年めを迎える小学部教員には、今年度小学部の初任者のメンターに任命しており、主に指導案指導をお願いしている。今年度は高等部にも初任者がおり、教科指導の面でも同じ学年に音楽教員がいないなど体制が整っているとはいえないが、授業づくりについては経験年数5年め未満の授業力向上研修など面で支える体制づくりを進める。③職業科目について、多くの支援学校では、窯業や木工などを専門的に教えられる教員がいるかどうかで、科目を設定しているため、中学部と高等部で設定科目が違うことがある。本校においては、6年間の系統性を考え、開校初年度から中高で共通の科目(窯業・農園芸・清掃・軽作業・喫茶が共通)で授業を実施している。開校初年度から、特に窯業、農園芸、清掃は指導の専門性も高くやってこられているが、属人的にならないよう、進めていきたい。④小学部の入学生が年々増えてきている。就学前施設への地域支援を進めることで、地域の小学校での学びやまた本校へのスムーズな移行につなげていきたい。また、今後高等学校に支援が必要な生徒が増えることを考え、高等学校への支援にも力を入れていきたい。⑤いじめについては、SNS 上など学校管理下以外で起きることも多く、系統立った情報モラル教育を進めていく必要がある。いじめが起こった場合は、それをきっかけにきちんと人間関係について指導をしていきたい。

教育庁の方針もあり、いじめアンケートを年3回実施し、いじめ対応委員会が中心となり追跡調査も行っている。

委員)①社会とつながる活動、外部の人の学校を知ってもらう機会について ②研究授業・協議について、毎回何かテーマを設定しているかについて、教えていただきたい。③意見として余暇の充実についての内容を入れてほしい。

校長)①学校のコンセプトとして、外に出る、外の人に来てもらうということを挙げている。地域の小中学校の先生方に支援学校の授業を見てもらいインクルーシブcafé の開催や、宿泊学習や避難訓練時には、地域の防災担当の方やあおぞら財団の方に来ていただいて、体験活動などの取り組みを行っている。中学部の就業体験実習では、前後期、それぞれ3日間で多くの就労先(福祉就労の事業所や特例子会社、中小企業家同友会の企業など)に来ていただいている。高校生・大学生とのコラボ活動については、桜和高校の生徒が本校に来て、施設見学を実施予定。②研究授業の研究協議については、授業の反省会にならないよう、毎回、授業者が協議してほしいテ

ーマを設定して討議を行っている。例えば、「授業のまとめの時間で児童生徒の授業内容のふりかえりについて」というテーマで協議をした回もあった。

首席)③余暇については、「職業」「家庭」に位置付けられている。学校では社会の授業において、学んだことをもとに旅行の行程について決める取り組みを実施したり、自立活動の授業でボードゲーム・カードゲームを行ったりしている。

校長)学校祭における「できじマネー」について、昨年度までは紙で配っていたが、電子マネーにしようという計画が進んでいる。ゆくゆくは日々の活動の中でポイントを貯めて、自分たちが頑張ったことに対して、祭りで使えるポイント(電子マネー)がもらえるという疑似体験につなげていく計画である。

委員)教職員の働き方について、小学校同様、残業をしている教員が多いと思うが、何か工夫はされているのか。

校長)今年度から 18 時完全退勤日を月2回設定している。(昨年度の年度途中からの実施。昨年度は月1回)最近の教職員はワークライフバランスを意識した働き方をしている人もいる。「早く帰ろう。」という雰囲気、帰りやすい雰囲気を学校全体で作っていきたい。

委員)校長先生が、教職員に対してしっかりと見てほしいと思う。

5. 今年度使用している教科用図書の説明、紹介(首席)

首席)小学部、中学部、高等部で使用している教科用図書について、実物を見せながら説明。小学部は触って学ぶことができる絵本など一般図書を中心に採択している。中学部では学習指導要領に準拠した「☆本」を採択している。高等部では「くらしに役立つ」シリーズを多く採択。

委員)特に意見なし。

次回の会議日程

日時	令和8年 10 月頃
会場	府立出来島支援学校 4階 会議室